



ホッとニュース



あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

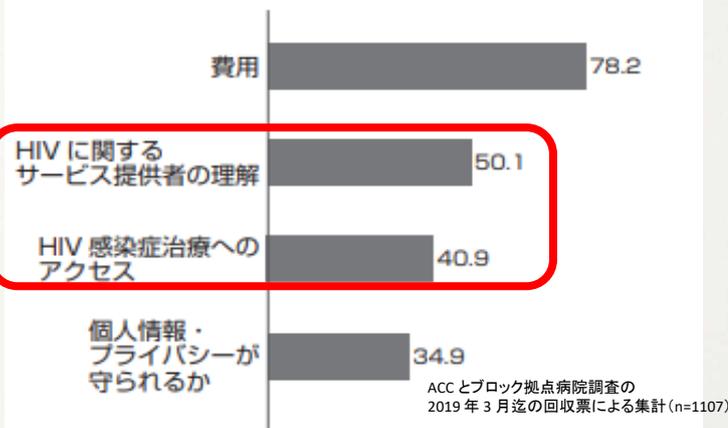
昨年は未曾有の感染症に襲われた1年でした。今も第3波の真っ只中、未だに先が見えない状況です。「もう我慢の限界！」そうですね、気持ちはわかります！しかし！「医療崩壊」は目前に迫っています。救える命が救えなくなる…そんな悲劇が起きないように、感染拡大の防止をしてこの危機を一緒に乗り越えましょう。

特集) 老後について、考えたことはありますか？

HIV医療の進歩により抗ウイルス薬の開発で患者さんの生命予後は非常に良くなりました。患者さんの寿命も20年前に比べると7倍に伸び、非感染者とほぼ変わりません。当院通院中の患者さんの平均年齢は40歳を超え、60才以上の方も1割を超えました。しかし同時に、介護サービスを受ける人は8年前に比べ7倍に増えました。

「HIV陽性者の健康と生活に関する全国調査」研究分担者：若林 チヒロ(埼玉県立大学健康開発学科)第4回調査が2019年に実施されました。その中で陽性者の**悩みやストレスの原因として「自分の病気や介護」とした人が3番めに多く、さらに介護についてHIVに関する不安を持つ方が多くおられることもわかりました。(下図)一方高齢期について備えをしている人は全体の25%と「不安や心配はあるものの、何もやっていない」人が大半であることもわかりました。(報告書から一部抜粋)**

Q.現在または将来介護サービスを利用するにあたって心配なことは？



介護が必要となつてすぐにサービスが受けられるかという、実はそうでもありません。残念ながら、HIVを正しく理解されていない施設から、受け入れを断られることも実際に起きています。患者さんも「病気がバレるといやだから」介護が必要にも関わらず受けないという方もいらっしゃいます。

つまり、**心配していることがまさに現実**に起きています。



九州医療センターでの取り組み 「HIV出前研修」

HIV出前研修は地域の医療機関や介護、福祉施設にHIV担当の医師、看護師、MSW等が出向き、HIVについての研修を「出前」するものです。8年間で131回、3228人の医療・介護・福祉従事者に受講していただきました。



歯科クリニックで歯科衛生士さんに研修をする吉川医師。歯科へのHIV研修も重要です。



施設で講義をする高濱医師。福岡県内の県境の施設まで行くこともあります。

出前研修の受講者から「**HIVを誤解していた、簡単にうつる病気で自分たちは受けられないと思っていた**」「HIVについて**正しい知識を身につけられたのでこれからは安心して患者さんを受け入れたい**」などの声が上がっています。



九州医療センターでは診療以外に**HIV啓発研修にも積極的に取り組んでいます**。みなさんが安心して高齢期を迎えられるよう、これからも取り組み続けていきます。みなさんも、**ご自分でできる高齢期への備え**について、ほんの少し考えてみてはいかがでしょうか。

福岡市政だよりに 山本政弘医師のインタビュー記事が掲載されました

福岡市政だより(12月1日号)人権特集「心に寄り添う～コロナ禍で見たもの～」AIDS/HIV総合治療センター部長山本医師が「私達の暮らしと感染症」についてのインタビューを受けました。



私達の暮らしと感染症
医療の現場から

九州医療センター
AIDS/HIV総合治療センター
山本政弘 医師

「この数ヶ月の状況は、まるでエイズが出始めた30年前を見ているようでした。人から人へうつる怖さが患者の存在を拒絶し「来るな、近寄るな」という発想に陥らせました。それは、医師も例外ではありません。わからないという不安が、診たくないという気持ちにさせるのです。未知の病に対して人間の本质は30年前と何も変わっていないという現実を突きつけられました。」

(中略) 男女や人種の違いに対して、当たり前ですが、人はそれを「区別」します。私はその区別の先に「差別」があると思っています。私達はおなじじゃない、だからこそお互いを認め合い、違いを認識することから始めます。医療従事者の中にも、自分は全て正しいと思っていて差別をしている自覚がない人もいます。患者である当事者の苦悩は本人にはわかりません。だからこそ、私たちは「差別をしているかもしれない」と常に意識しています。」

(記事より抜粋)

(上・右上)院内での研修風景を再現した写真が掲載されました。あれ？写っているは…？！

30年前のエイズパニックを経験している山本医師。コロナ禍の状況を「30年前と何も変わってない」といいます。

あなたに伝えたい私の思い・・・
Drタカハマの

伝言メモ

静かな年末年始をお過ごしの方へ

いまだコロナの話題は避けられない状況。みなさんは鼻口をマスクで覆い、アルコール消毒しつつ、新たな生活スタイルを見つけましょう。

第三回目は「ばらまき」です。医療者への追加給付金を考えているようです。医療者にお金を与えれば大丈夫という考え、ばかにするにもほどがあります。まずは新規感染者を減らす政策を考えないと、病床と医療者は無限ではありませんよ。それより政治家は人の税金でGo to 会食大好きですね(´艸`)

ここで一句、
「海の上 幕僚長の 送別会？」

今後も何かトピックがあれば、紹介していこうと思います。

こんな時こそ前向きに・・・
Dr タカハマより

自立支援医療更新手続きについて

新型コロナウイルス感染症にかかる特例措置は
2月まで

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で2020年2年3月～2021年2月末の1年間、感染拡大防止の観点より自立支援医療の有効期間を1年間延長する措置が実施されていきました。そのため手続きせずに1年更新された方もおられたと思います。この特例措置について、今日現在(令和3年1月4日)国からの通達がないため、今年の3月以降については特例措置が継続されるかどうか明確にされていません。3月1日以降に有効期限を迎える方は、例年と同様に自立支援医療更新手続きが必要となる可能性がありますのでご注意ください。

なお、市町村で対応が異なります。自治体から通知されることもあります。ない場合もあるようです。特に3月以降に有効期限を迎える人は、ご自分で役所にお尋ねいただくことをおすすめいたします。ご不明な点はソーシャルワーカーにご相談ください。

編集後記

新年早々老後の特集なんて！とおもわれました？人生100年時代。老後の備えは考えないわけにはいきません。では何すればいいの・・・それは「終活」。いまは30代からはじめる人もいます。明るい将来、老後のために私も今年は早速始めようと思います(S)